

友達の好きな色の文字を見つけよう

「365日の全授業」対応事例 ▶ 「友達の好きな色の文字を見つけよう」(p.86~87)

子どもの ICT 環境



端末

- Chromebook (Google)

OS

- Chrome OS

ツール・アプリ

- Google Jamboard (Google)
- Google Classroom (Google)
- Google フォーム (Google)

授業の DX のポイント



①高学年での「書くこと」への意欲を高める

子ども達はアルファベットの文字に慣れ親しんでいくと、単語がアルファベットの文字の集合体であることに気が付きます。「読むこと」の領域は外国語活動では取り扱いませんが、5年生での「読むこと」「書くこと」の活動を意識して簡単な課題に4年生のうちから取り組ませておくと、高学年での学習につなげることができます。

Jamboard はペアや班での協働作業に適したツールです。単語探しは4年生の学習段階では難しい子どももいますが、ペアやグループで協力しながら単語を見つけ、楽しくアルファベットに慣れ親しませることができます。今までは1つの紙に全員で集まって書き込んでいくのが一般的でしたが、Jamboard を利用することで、一人一人

授業のねらい

・本時は友達の好きな色の文字を尋ね合う活動を行う。活動の中でアルファベットの小文字やその読み方についてやり取りをし、楽しさを感じさせる。単語はアルファベットの文字の集合体であることを伝え、高学年の書く活動へとつなげる。

が手元の画面で1つのデータを確実に操作・編集でき、これにより活動への意欲がより高まります。

②絵カードの紛失を防ぎ、複製も簡単にできる

これまでは、1人1セットのアルファベットカードをもち、それを机の上に広げて並べ替えの作業を行っていました。その際、カードを落としたり、なくしてしまったりすることがありました。また、アルファベットカードを並べ替えて単語をつくる活動では、綴りに同じ文字が複数出てくる単語を作成することは不可能でした。Jamboard では、付箋機能を利用してアルファベットカードを準備することができます。もし誤って消しても、子ども達は自分で新たにアルファベッ

トカードを付箋機能で簡単に作成することもできます。また、1つの単語に同じ文字が複数あったとしても、必要な数のアルファベットカードを複製することができます。さらに、付箋の色を変えることもでき、単語にあるアルファベットの色を変えて、並べ替えやすくすることもできます。

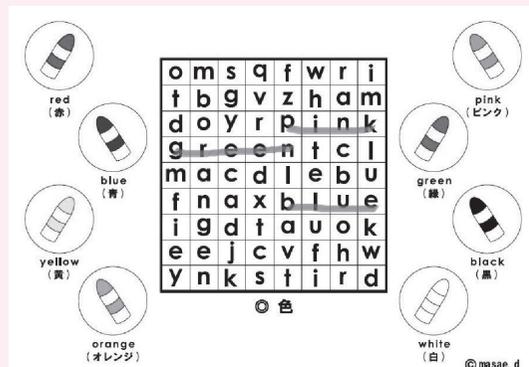
③単元を通してクラスの到達度をデータ化する

単元を通して振り返りをフォームに入力させておくと、個人の到達度の変化を記録することができます。クラス全体の到達度を簡単にデータ化することができます。また、表現の定着が難しい子どもも把握しやすく、個別の支援がしやすくなります。

ワークシート

- 「英単語のつづりを探しだそう」(サクラクレパス HP)
<https://www.craypas.co.jp/pdf/teacher/dl-language/language05.pdf>

①単語探しをする



Jamboard の背景に単語探しのワークシートを設定し、Classroom を通してグループごとにコピーを配付します。グループで協力して1つのデータで作業することができます。

「ペン」から蛍光ペンを選択させ、見つけた単語に印をつけさせます。本時では色の単語の綴りから色を当てるクイズをさせるために、最初に色の単語に慣れ親しませておくことが大切です。

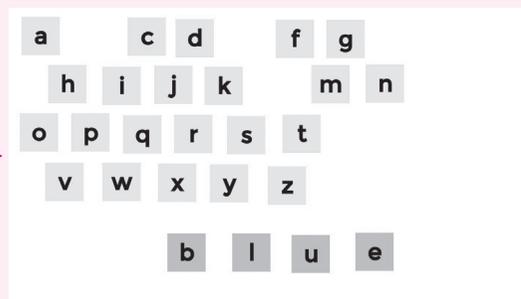
②アルファベットの文字の並べ替えをする



Jamboard の2ページ目にアルファベットの文字を入力した付箋をバラバラに配置しておきます。制限時間内で、子ども達に付箋をアルファベット順に並べ替えさせます。

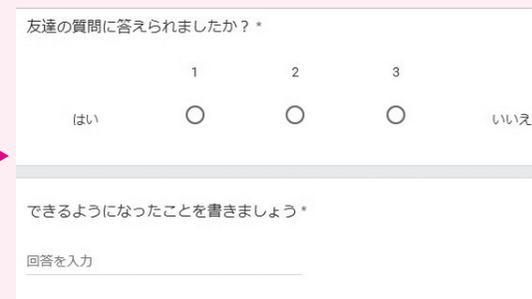
並べ替えさせた後に、ペアやグループでアルファベットの文字の順番を確認させます。また、「レーザー」を使ってグループ内でかるたをさせることもできます。

③ペアで色当てクイズをする



Jamboard の3ページ目以降にアルファベット順に並べたフレームをグループの人数分準備します。友達と好きな色の綴りの中にある文字について尋ねたり答えたりしながら、好きな色を当てる活動を行います。“Do you have ‘u’?” “Yes, I do. I have one ‘u.’” と付箋を並べ直したり、色を変えたりして、友達の好きな色の単語を作成させます。

④振り返りをフォームに入力する



フォームで振り返りカードを作成し、Classroom で課題として事前に配付します。子ども達が振り返りやすいように、三段階の項目で自己評価します。

できるようになったことや難しかったことを記入させ、前時からの自分の成長を感じさせたり、次回への学習意欲をもたせたりします。教師はそれらを回収し、コメントを紹介します。